

ソーシャルワークと専門職

2単位 ※担当教員は変更する場合があります。

担当教員：(北海道)明星 智美、大木 えりか
 (東京)上山崎悦代、大林 由美子、
 鷺野 明美、末永和也
 (愛知)安藤 健一、神林 ミユキ
 (大阪)山本 克彦、小松尾 京子

ソーシャルワークの専門職になりゆくとは — 価値・知識・技術から、ソーシャルワークを学ぶ

講義目的・到達目標

ソーシャルワークとは何かを理解する

本科目は、社会福祉の学習をはじめたばかりの学生を想定した専門導入科目である。ソーシャルワークがめざすもの、価値・知識・技術の各側面からソーシャルワークとは何かを論じる。ゲスト講義やシンポジウムを通じて社会福祉士、精神保健福祉士の実践にふれ、ソーシャルワーク専門職の実践イメージをつかみ、価値・知識・技術が実践においてどのように体现されるのかを理解してほしい。

ソーシャルワーク専門職に求められる実践力の理解に基づき、自身が専門職をめざすかどうかの判断ができる

ソーシャルワーク専門職に求められる実践力や職責を理解する。講義の後半では、社会福祉士・精神保健福祉士となりゆく具体的なプロセス（養成課程）やそこで期待されることをふまえたうえで、受講生各自が「専門職をめざす意味」を考える。「ソーシャルワーク専門職」「社会福祉がわかる市民」のいずれの道を選択するかの判断に資するグループワーク等を取り入れる。

講義の構成

講義の流れ

講義は、おおまかに次の6つの項目からなる。
 ①専門職とは何か(導入としての専門職論)、②ソーシャルワークのフレーム(ゲスト講義)、③ソーシャルワークとは何か(ソーシャルワークの基礎理論)、④ソーシャルワーク実践(シンポジウム)、⑤ソーシャルワークの価値・知識・技術、⑥ソーシャルワーク専門職になりゆくために
 一般的な専門職の中から、ソーシャルワーク専門職の特徴を見出し、基礎的な理論と現場実践とをつなぐ。
 ※会場によりプログラムの順序を変更することがある。

このような「？」をテーマに受講してほしい

1日目

担当教員の講義：何をもって「専門職」というのだろうか？
 ソーシャルワークとはどのような特徴を持つのだろうか？
 ゲスト講義：ソーシャルワークを学ぶとはどのようなことだろうか？
 ソーシャルワーク専門職に求められているもの(こと)はどのようなことだろうか？
 シンポジウム：社会福祉士・精神保健福祉士は、どのような実践をしているのだろうか？
 ソーシャルワーク実践で大切にしていること、魅力はどのようなことだろうか？

講義のポイント

科目担当教員による講義では基礎的な理論を整理する。ゲストによる講義、シンポジウムでは、ソーシャルワーク実践の具体的な展開を通じて、ソーシャルワークの価値や魅力を明らかにしていく。ゲスト講義・シンポジウムをふまえた担当教員の講義では、理論と実践を結ぶ試みをする。随所にワークシートを使った個人ワークやグループワークをとりいれ、受講生相互の意見交換、講義内容の理解度の確認や自身の考えをまとめていくことに取り組む。

2日目

担当教員の講義：ソーシャルワークの価値・知識・技術とはどのようなものだろうか？
 ソーシャルワーク専門職となりゆくためには何をしなければならぬのだろうか？
 個人ワーク・グループワーク：講義で何がわかってきたのだろうか？
 講師や他の受講生の考えをどのように受け止め、私は何を考えたか？
 私はなぜ社会福祉士・精神保健福祉士になろうとしているのだろうか？
 私は本当にソーシャルワークの専門職になりたい(なる必要がある)のだろうか？

受講するにあたって

- ①事前学習の
 すすめ ①下記の図書を受講までに読了すること、②オンデマンド科目「社会福祉援助技術論Ⅰ」を学習しておくこと、のいずれかに取り組んでおくこと。
- ②参考図書 岡部真智子・杉本浩章編著『社会人のための社会福祉士—社会人学生と実習指導者のための実習読本』学文社、2011。なお、科目修了試験時は、本文献のみ持込可とする。
- ③評価基準 レポート形式の筆記試験による。①スクーリングでとりあげた事柄を正しく理解していること、②求められていることを正しく受け止め、受講生自身が自ら「考え」「伝える」ことができていること、③自分の「考え」を根拠を示しながら述べていることを評価のポイントとする。
- ④より学びを
 深めるために 本科目は、社会福祉やソーシャルワークの学習の初期にある学年の受講を想定しているが、受講学年や社会福祉に係る経験等によって、自分自身の受講テーマを設定しておくこと。